①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・1年で，●＋◆＋▲といった3口のたし算の学習をしている。

○既習とつなぐ見方・考え方

・問題場面の状況を，図を用いて表す学習をしている。

○共同追究でのゆさぶり

・全部たしているのは共通だが，3口のたし算のたし方の違いを考える経験は初めて。

○ゆさぶりに対応する経験

・入ってきた車の台数をまとめると，●＋★といった2口のたし算になることを学習している。

≪学習問題≫

ちゅう車じょうに　車が　10だいとまっていました。

そこへ　2だい　はいって　きました。

また　6だい　はいって　きました。

車は　いま　なんだい　ありますか。

教材研究ノート№2-A-9

≪定着・活用問題≫

授業計画･実施記録

主眼

≪学習問題≫



②見通し: 駐車場に，車が2回入ってきている。

　→(とまっていた車の数)＋(入ってきた車の数)＝(全体の車の数）

②学習課題:とまっていた車と入ってきた車の数を図で表して，全体の車の台数の求め方を考え，説明しよう。

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

③個人追究: 車を図に表して，全体の台数の求め方を考え説明する。

④共同追究前半（解法の比較検討）

「どのように計算しているか，図と式で説明しよう。」

→「式は，10＋2＋6。全部たすと18台になる。」

「図では，はじめ10台←○○←○○○○○○　と表せる。」

→「10＋8で18台と計算してもよい。」

　「図では，はじめ10台←○○○○○○○○　と表せる。」

④共同追究後半（思考を深める）

「3口のたし算は，どこからたしてもよいのだろうか？」

→「左から順にたしても入ってきた車の台数を先に計算しても結果は同じだから，どこから計算してもよい。」

「順にたしても，まとめてたしても，最後の台数は同じ。」

⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・(とまっていた車の数)＋(入ってきた車の数)＝(全体の車の数）であり，図で表したら解決できた。

・3口のたし算は，左から順にたすだけでなく，入ってきた車をまとめて考えると，後の2数を先にたすこともできる。

⑥定着･活用問題

いけに　あひるが　17わ　いました。そこへ　6わ　はいってきました。また　6わ　はいってきました。

(1)あひるは　なんばに　なりましたか。

(2)図としきで表して　もとめ方をせつめいしましょう。

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・●＋◆＋▲という3口のたし算で，◆＋▲をまとめてからたすという考え方に迫るために，増加の問題を扱うと，半具体物の操作や図を用いて考えやすい。

・子どもたちの「全部たして」という言葉や式，図を共通基盤にして，3つの数で，どれとどれからたしているのか意識化させ，たし方の違いがうまれた理由を聞き合う場を設けたい。

【板書計画】